

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス unico古賀駅前		公表日	2026年4月29日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		基準を上回るスペースを確保の上、運動に使えるさまざまな遊具を配置することで、お子さまがいつでも身体を使って遊べる環境を提供しております。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			より活動空間をはっきりと分け、学習スペース・リラックススペースが目的に沿って使用いただけるよう工夫いたします。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者機関からの評価を受ける代わりに、本社職員を事業所に派遣して評価を行う内部監査制度を年2回実施しております。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月、研修を行っています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察など含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・遊びを通じて楽しみながら学べる集団活動をワークショップとして毎日提供しております ・5領域が偏らないよう、多様な体験機会をワークショップとして提供しております	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		翌日に実施しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			現状発生しておりません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡帳システムを導入し、保護者様へお子さまの活動の様子や支援の内容を毎日お知らせできるよう体制を整えております	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス unico古賀駅前		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 1日		2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 1月 1日		2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さま自身で考え自信をもって選択決定することを尊重した支援アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・全員がコーチングをベースにしたコミュニケーション技法を学び、子どもたち自身で選び学び考える関わりを実践しています ・毎日の支援の振り返りを徹底し、よりお子さまおひとりおひとりに合った課題の提供や関わり方を検討しております 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後はお子さまとの面談なども実施し、よりお子さま自身が挑戦したい課題に合わせた活動を提供してまいります
2	5領域を横断的に体験できる充実した活動機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通じて楽しみながら学べる集団活動をワークショップとして毎日提供しております ・5領域が偏らないよう、多様な体験機会をワークショップとして提供しております 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さま企画のワークショップなども活性化し、より主体的に参加できる活動機会を提供してまいります ・その日のワークショップに、よりおひとりおひとりのお子さまの療育課題を踏まえた工夫を取り入れてまいります
3	思いきり身体を使って遊ぶことのできる環境	<ul style="list-style-type: none"> ・基準を上回るスペースを確保の上、運動に使えるさまざまな遊具を配置することで、お子さまがいつでも身体を使って遊べる環境を提供しております ・ボルダリングやトランポリンなどの常設遊具も用意し、ふだんの日常生活では体感しづらい感覚刺激をいつでも体感できる環境を提供しております 	<ul style="list-style-type: none"> ・より安全に身体を使って遊べるよう、職員の危険予測のスキル向上を図ってまいります ・落ち着いて過ごしたいお子さまも、安心して過ごせるよう、空間分けの工夫を検討してまいります

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	どのお子さまにも安心してご利用いただける環境設定	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さまへのアセスメントが十分ではない中、開設間もなく多くのお子さまにご利用いただいたことで、教室全体が必要以上に賑やかな雰囲気になることが多くあり、お子さまによっては居心地が悪く感じさせてしまうことがあります ・運動スペースが広く身体を動かして遊ぶお子さまが多くいらっしゃる分、学習スペースやリラックススペースまで賑やかになってしまうことがあります 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さまおひとりおひとりの課題の振り返りを継続し、最適なアプローチができるようにいたします ・より活動空間をはっきりと分け、学習スペース・リラックススペースが目的に沿って使用いただけるよう工夫いたします
2	保護者様への支援および保護者様を巻き込んだ療育支援	<ul style="list-style-type: none"> ・開設後、お子さまの支援および体制構築に注力してきたことにより、保護者様へのお子さまの活動の様子や支援内容についてのお伝えが十分ではないことがあります ・ご要望にはお応えしておりますが、事業所からの保護者様への細やかなフォローやお悩みのヒアリングには至れておりません 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳システムを導入し、保護者様へお子さまの活動の様子や支援の内容を毎日お知らせできるよう体制を整えております ・保護者様への定期面談や保護者様どうしの懇親会なども検討してまいります
3	安全に留意した支援や環境設計の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな事故や怪我は発生しておりませんが、お子さまに活発に過ごしていただいている分、より安全に留意した支援や環境設計の必要性があると理解しております ・今後、外出体験お多く取り入れるためにさらなる必要性があると考えております 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット報告の活性化と、危険予測についての指導を図ってまいります ・空間ごとの職員配置や、活動内容に応じた空間分けの徹底に取り組んでまいります